

下ろした雪も利用対象

名寄市議会 決算委 開業医誘致粘り強く

【名寄】市議会決算審査特別委員会（東川孝義委員長）は26日、歳出審査を続行、午前中、民生費、衛生費で5委員が質疑した。屋根雪下ろし助成について、市は屋根から下ろした雪も助成対象にする考えを示した。

佐久間誠委員（市民連合・凜風会）への答弁。廣嶋淳一（市民連合）も高齢者支援室長は「名寄地区70、風連地区56の126世帯が利用し、雪下ろし中の事故防止に効果があった。今シーズンからは下ろした雪も対象にした」と答えた。

山崎真由美委員（市民連合・凜風会）は、生活困窮者自立支援事業の相談者個々に応じた支援を求め、松田慎司社会福祉課長は「委託している市社会福祉協議会社協と定期的に支援調整会議を開き、個々の状況や支援の方法などで情報交換している」と答えた。

川村幸栄委員（共産）は、子供の医療費無償化の拡大を求め、小川勇人健康福祉部長は「大きな財源が必要で、

は「国が現在2回接種の効果を検証している」と述べ、結果を受けて市助成のあり方を今後検討すると答えた。

加藤剛士市長は「エフエムなよろが、有効な情報で役割を果たしてくれた」と述べ、「さまざまな災害が想定される中、多様な情報伝達手段を整えることが大事だ。まだ十分でない」と認識している。迅速

災害FMの役割認識

名寄市議会「多様な情報手段必要」

【名寄】市議会決算審査特別委員会（東川孝義委員長）は25日午後、総務費の歳出審査で6委員が移住お試し住宅、市職員のハラスメント研修、地域おこし協力隊修了後の定着

拡大すれば、途中で止められず、持続可能な制度でなければならぬ。来年度の保育料無償化、市内保育所の老朽化など、子育て支援の課題があり、なにを優先するか、将来を展望した政策選択を行う必要がある」と答えた。（吉永雅人）

また、6日の胆振東部地震による市内停電時の対応に関し、山崎真由美委員（市民連合・凜風会）は地域コミュニティFM「Airてっし」が停電時に行

高橋伸典委員（公明）は、市が助成している高齢者肺炎球菌ワクチンの接種効果が8〜10年で弱まるのではないかと効果を質問。渡辺里佳保健センター主任

は、市議会決算などをただした。また、6日の胆振東部地震による市内停電時の対応に関し、山崎真由美委員（市民連合・凜風会）は地域コミュニティFM「Airてっし」が停電時に行

速で的確に情報を届けるような手段を検討していく」と答えた。（吉永雅人）

洋服無料
FARM
しゃしの稲場
名寄市西1条南5丁目
01654-2-2487